

(様式1) ※A3判(1枚)に収める。実践充実プランの内容と年間推進計画書との整合性に留意して記載すること。

「道徳教育推進拠点校事業」実践充実プラン 南国市立岡豊小学校		校長	島内 祥夫	教員数	19	児童生徒数 学級数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		合計		
		道徳教育推進教師	山本 由美	19	児童生徒数		学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
研究テーマ		道徳科の趣旨を踏まえた指導方法の工夫・改善と評価の在り方に関する実践研究により、児童一人一人の道徳性の向上を目指した道徳教育の推進																			
年度当初の学校の状況		到達目標				中間検証(下半期に向けての改善事項)								年度末(到達目標達成状況)							
<p>本校の児童は、道徳科の学習に対して主体的に取り組み、自らの考えを深めていく学び方が少しずつできるようになってきた。昨年度行った道徳意識調査において、道徳の学習に対する肯定的評価は80.7%であった。教師側の課題としては、児童の学習状況を見取り評価していくことや児童の発言をつないでいくこと、問い返しによって深めていくことなどがあり、児童の学びを深める手だてについての研究の必要性が明らかになってきた。また、道徳科の授業の充実に加え、道徳教育全体計画を基に全教育活動を見直し道徳的な実践の場を意図的に設け、全教職員がすべての教育活動の中で児童の道徳性を育てていくことが必要である。また、家庭・地域との連携についても計画的に進めていく必要がある。</p>		<p>①道徳の学習に対する意識を5ポイント以上向上 ②「自分には、よいところがあると思う」5ポイント以上向上 ③「将来の夢や目標をもっている」3ポイント以上向上 ④「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」3ポイント以上向上 ⑤「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う」100% ⑥「学校のきまりを守っている」5ポイント以上向上</p>				<p>・校長の推進方針の徹底と推進教師を中心としたより効率的な推進体制の見直し、強化を図る。 ・管理職が全道徳科の授業を参観し、指導・助言する体制を整えた。 ・講師招聘(大学教授・県指導主事等)の機会を増やし、取組充実のための具体策を早急に浸透させる。 ・1学期の研究で明らかになってきた成果や課題を意識し、2学期からの研究を方向付ける。 ・道徳科の内容と各教科、特別活動との関連を意識することができるように別葉を掲示し、授業ごとに見直しを行う。</p>								<p>①「道徳科の学習に対する意識」は、4.4ポイントは向上したが、到達目標は達成できなかった。「道徳の勉強は、すきだ」という項目においては、5.7ポイント向上することができた。 ②「自分には、よいところがあると思う」は、9ポイント向上した。 ③「将来の夢や目標をもっている」は、5.1ポイント向上した。 ④「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」は、0.3ポイント低い結果となり昨年度とあまり変化がなかった。 ⑤「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う」は、3.7ポイント向上する結果となったが、100%には届かなかった。 ⑥「学校のきまりを守っている」は、昨年度に比べ0.9ポイント低い結果となり、到達目標を達成できなかった。</p>							
到達目標達成のための取組		取組計画 ※評価 A(十分できた) B(おおむねできた) C(あまりできていない) D(全くできていない)																		指標達成状況の分析	
取組項目	取組の評価指標	5月～8月				中間評価	9月～2月(中間検証を踏まえての追記・変更可)								達成状況		年度末評価				
道徳科の趣旨を踏まえた指導計画の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会(毎月開催)にて、進捗状況を報告する。 ◆各学年の別葉、年間指導計画に基づく取組の検証(3回以上) ◆管理職、道徳推進教師が、全学級の道徳科の授業を参観する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳教育の全体計画(各学年の別葉)、各学年の道徳科の年間指導計画の作成 ②道徳推進教師が全道徳科の授業を参観できる体制の構築 ③授業者と推進教師が、事前研→授業実施→事後研のサイクルにおいて短時間で打合せをする時間の確保 ④道徳意識調査の結果の協議・取組策の検討(運営会議) 				B	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳教育の全体計画(各学年の別葉)、各学年の道徳科の年間指導計画の実質化 ・道徳科の内容と各教科、特別活動等との関連について検証 ・道徳科の年間指導計画の評価欄への記入(随時) ②授業者と推進教師による事前研→授業実施→事後研のサイクルの定着と授業の質の向上 ③意識調査の検証を踏まえた改善策の検討(運営会議) ④小・中学校道徳教育研究協議会の報告会を開催し、効果的な取組を共有 								<ul style="list-style-type: none"> ◆運営委員会(年間12回)を実施することにより確実な進捗管理ができた。 ◆道徳教育推進教師と各担任による進捗管理により別葉の加筆修正(随時)の記入ができた。 ◆管理職、道徳推進教師による全授業参観・指導により、学校全体の道徳科授業改善が図られた。 		A				
道徳科の趣旨を踏まえた「考え、議論する道徳」の授業研究	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳授業チェック【教師用】【児童生徒用】を3以上にする。 ◆公開授業研においては、広く案内をして、授業についての意見をもらう。(8回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業研究3回(講師招聘) ②道徳授業チェックシート(全教師、全児童)の結果及び個人内評価に係る協議・授業改善の検討 ③学習指導案、教具、板書写真の整理・保管 ④他校(指定校)の公開授業への参加(1回、計2名) 				B	<ul style="list-style-type: none"> ①授業研究5回(講師招聘) ・道徳授業チェックシートの活用・集計・分析 ②道徳授業チェックシートの結果及び個人内評価の協議・検討 ③学習指導案、教具、板書写真、授業記録等の整理・保管 ④他校(指定校)の公開授業への参加(2回、計2名) ⑤自校の授業実践を発表 								<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳授業チェックシートを授業改善に生かした結果、年度末には、教師:3.6 児童:3.5という結果となった。 ◆授業研究(12回)における事後研究の記録を共有し、次時に積極的に生かすことができた。 ◆公開授業研には講師を招聘し、本校の研究に対する助言を頂いた。8月には実践発表を行い、助言を研究に生かすことができた。 		A				
道徳科の趣旨を踏まえた評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> ◆評価の仕方を共有する。(学期1回) ◆学期末の個人懇談で、学習状況や道徳性に係る成長の様子を保護者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳ノート、板書、評価簿を活用して、毎時間の道徳科の授業での児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。 ②評価の仕方を校内で共有し、学年末の個人懇談で保護者に伝える。 				B	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳ノート、板書、評価簿を活用して、毎時間の道徳科の授業での児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。 ②評価の仕方を校内で共有し、学年末の個人懇談で保護者に伝える。 								<ul style="list-style-type: none"> ◆評価についての考えを全体(校内研修)で共有し、評価の仕方について共通理解を図ることができた。 ◆道徳に関する児童の成長を、毎学期末の個人懇談で保護者に伝えることができた。 		B				
家庭・地域と連携した道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳参観日を実施し、保護者や地域の人に参観を呼びかける。 ◆学校だよりや道徳だよりで取組・成果について発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①4月の参観日における学級懇談、PTA総会の際、道徳学習の取組について説明する。その際、「高知の道徳」を紹介する。 ②毎月たよりに、授業の様子や「高知の道徳」の内容をシリーズ化して紹介・啓発する。 				C	<ul style="list-style-type: none"> ①道徳参観日を実施(全学級公開)する。OMOIYARI集会も同日に行い、保護者や地域の方に児童の思いやりあふれる取組発表の様子も公開する。 ②毎月たよりで授業の様子を紹介する。 ③「高知の道徳」に係る家庭での取組を提案する。 ④「高知の道徳」を用いた保護者懇談会を設ける。 								<ul style="list-style-type: none"> ◆道徳参観日には本校の道徳教育の取組について、保護者に向けて話をした。学級懇談においても道徳教育について話題にした。 ◆道徳だよりで道徳授業に係る内容を掲載して発行した。 ◆意識調査「家庭との連携」の項目で18.8ポイント向上することができた。 		B				